

# 「i-都市再生」の最近の取り組み

## 地球地図 (Google-Earth等) 上で都市再生を「見える化する」 情報基盤「i-都市再生」

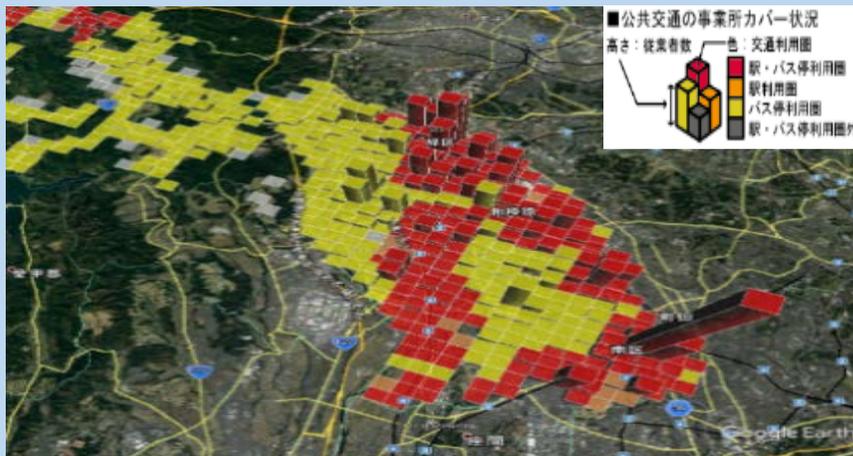
(2つの目的)

- 1) 都市再生の社会的合意形成・投資環境のイノベーション ⇒ 民間投資の喚起
- 2) 都市再生緊急整備地域の再生事業KPIの設定・評価・検証 ⇒ EBPMの支援

(i-都市再生の機能) 2つのMain-module + App.構成 (GIS・世界標準との互換性確保)

- ① 都市空間管理に関するmodule ⇒ どのようなまちになるか (直感的な理解)
- ② 都市収支分析に関するmodule ⇒ まちは持続、発展するか (数理的な納得)
- ③ ビックデータ・オープンデータ ⇒ 交通/環境/災害等 諸課題解決のApplication

(特に②への適用としてgridメッシュ単位でのDATABASEとする予定)



メッシュデータによる見える化 (公共交通利用圏と夜間人口分布)



VR技術を活用した表現ツール(大分市中心市街地)

# 「i-都市再生」の最近の取り組み ～技術仕様案の公表～

## 「i-都市再生」技術仕様案（i-UR1.0）の公表

平成31年3月20日 「i-都市再生」技術仕様案(i-UR 0.9) テクニカルレビュー  
令和元年5月7日 「i-都市再生」技術仕様案(i-UR 1.0) 公表

今後、公募型のモデル調査や自治体等交流会議において、修正・追加の意見があれば修正・機能拡張していく形で、技術仕様のバージョンアップを図っていく。

## 技術仕様案のポイント

- 国際的な整合性（国土地理院JPGIS2.0を含む）汎用性、拡張性が担保されていること。
- インタラクティブなツール（多様なソフト）との互換性が確保されていること。
- 政府が進める「データ利活用の促進」との整合がとれていること。
- 自治体等が保有する膨大なデータの利活用を促進するためのデータ形式であること。
- 「i-都市再生」を活用して、多様な開発（アプリ、ビジネスモデル）が可能であること。

国際標準規格CityGMLによる技術仕様案とした

# 「i-都市再生」の最近の取り組み ～ モデル調査の実施～

- 主旨**
- 「i-都市再生」の活用・普及のモデル調査として、「i-都市再生」の技術仕様案（i-UR 1.0）を有効に活用し、「i-都市再生」普及に資する取組についての提案を募集
  - 募集した提案の中から、持続性や横展開性の優れたものについて、取組の開発費を支援し、その成果を踏まえ、今後の「i-都市再生」の構築、活用、普及について、検討しようとするもの

## 提案内容

・ i-都市再生技術仕様案（i-UR 1.0）を活用

- ・ 「i-都市再生」の普及に資する取組
- ・ 横展開できる活用パッケージ

取組の提案

提案者： ◆民間事業者等 ◆大学等研究組織 ◆地方公共団体

選定

開発費の支援

提案の開発

以下の2タイプにより支援を行う

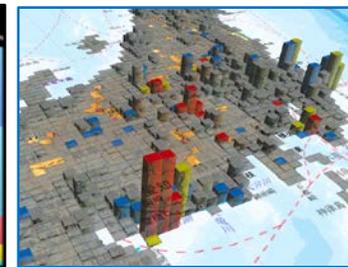
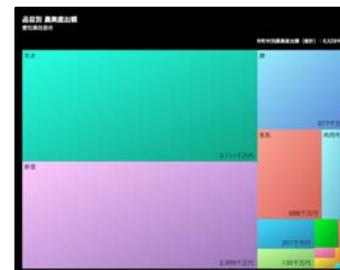
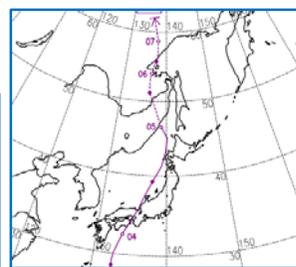
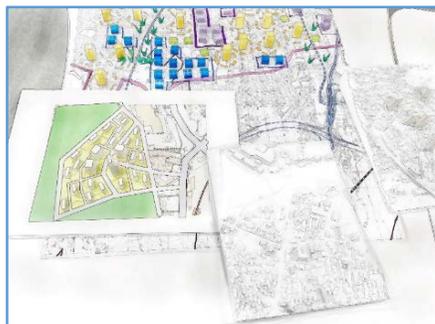
- タイプA：実現性を有し、i-都市再生の普及に資する取組（サービス、ビジネスモデル等）のプロトタイプ作成を図るもの  
（上限3,000万円／提案団体）
- タイプB：アイデアの熟度向上を図り、プロトタイプの実成の基礎検討を実施するもの  
（上限 300万円／提案団体）



・i-都市再生により、高齢者の人口や公共交通利用圏等を可視化し、医療機関や福祉施設等との交通機能を最適化するサービスの提供

・i-都市再生データの可視化により住民説明会など関係者の合意形成を支援するツールの作成

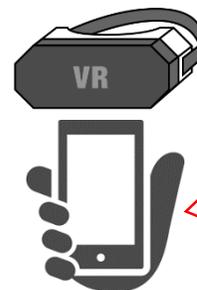
- ・まちづくりの検討材料の制作
- ・その使用方法 等



・i-都市再生と他サービスのデータを組合せて、政策・立案を支援するツールの作成

・i-都市再生データをインターネット地図上に可視化し、デバイスで表示させる等アウトプットツールの提案

- ・VR ・スマートフォンアプリ 等



i-都市再生技術仕様案

i-UR 1.0